

## 腫瘍外科の外来診療あるいは入院診療を受けられた患者さんへ

### 【腫瘍外科における Stage II/III 肛門管（直腸）扁平上皮癌に対する化学放射線療法による治療成績の検討】への協力をお願い

肛門管（直腸）扁平上皮癌はまれな疾患であり、欧米では化学放射線療法が標準的な治療となっている。本邦においても化学放射線療法が主流となっており、腫瘍外科では肛門管（直腸）扁平上皮癌に対し、積極的に化学放射線療法を施行してきました。

この治療の治療成績を検証するためには後ろ向き研究（今までの臨床データを解析して、治療成績や患者さんの自然経過をみさせて頂く研究）が非常に重要です。

それにゆえ、当科で治療された患者さんの 2008 年 4 月～2018 年 5 月までのデータを解析いたします。対象となるデータは、診療録（問診、診察所見）、検査結果（血液検査、下部消化管内視鏡検査、病理検査など）、画像検査（CT, MRI など）、化学放射線療法の有害事象など日常診療において行われてきた診療録のデータです。

この研究は、過去の診療記録を用いて行われますので、該当する方の現在・未来の診療には全く影響を与えませんし、不利益を受けることもありません。解析にあたっては、個人情報には匿名化させていただき、その保護には十分に配慮いたします。当然ながら、学会や論文などによる結果発表に際しても、個人の特定が可能な情報は全て削除されます。

この研究に関して不明な点がある場合、あるいはデータの利用に同意されない場合には以下にご連絡いただきたいと思います。なお、本研究は、岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会の承認を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当科における診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

2018 年 5 月 9 日

連絡先：岐阜大学医学附属病院 第 2 外科

研究代表者：吉田和弘

担当者：高橋孝夫、松橋延壽

電話：058-230-6233